



NPO 法人 江戸城天守を再建する会

こんてんつ

三浦正幸教授特別寄稿	1
松平定知特別顧問囲む会	2
ベルリン王宮の再建	3
100万人署名・支部活動	4
東京江戸ウィーク後援	5
黒田涼江戸城ガイド②他	6
会員のひろば	7
イベント報告・その他	8

平成 29 年 9 月 20 日 第 45 号

新しく生まれ変わった NPO、



市民が創り上げる江戸城天守再建の実現を!



特別寄稿 『歴史に残る名城の天守』

＜第 1 回：江戸城 その 1＞

広島大学大学院教授 三浦正幸
(当会特別顧問)

三度建てられた江戸城天守

江戸城天守は、初代将軍の徳川家康が創建し、二代秀忠、三代家光が短期間のうちに次々と建て替えており、合わせて三度建てられた。そして、天守が載る台座の石垣・天守台は、四代家綱の時に再築されたものが現存する。

慶長 12 年（1607）、家康は豊臣秀吉の大坂城天守をはるかに超える江戸城天守（三代の天守を区別して家康の天守を慶長度天守という）を創建した。位置は現在の天守台よりずっと南方だった。その外壁は漆喰で真っ白に塗り籠められ、鈍い銀色に輝く鉛瓦で葺かれており、まるで雪山のようだったという。

家康が没して 6 年後の元和 8 年（1622）に、秀忠は本丸御殿の拡張のため家康の天守を取り壊して、翌年、北に位置を変えて新たな天守（元和度天守）を完成させた。元和度天守は後の家光の天守と同型同大で、4 階の破風の形が相違した。

秀忠が没すると、家光は父の天守を解体して寛永 15 年（1638）に面目を一新させた天守（寛永度天守）に建て直している。天守をわずか 15 年ほどで建て替えた理由は、将軍の実権が家光に移ったことを諸大名に示す象徴とするためだったらしい。

その寛永度天守は、明暦 3 年（1657）の江戸大火（振り袖火事）で延焼してしまった。江戸市中を焼き尽くす都市大火で起こった火災旋風（火炎の竜巻）に煽られて、銅製の窓戸が吹き上げられて開き、そこから火が入ったという。焼失後に現在の天守台が再築されたが、幕府の財政難で天守本体は再建されることなく、今日に至っている。

寛永度天守の規模と外観

寛永度天守は、現存の天守台と同じ場所にあった。この天守台は、天守焼失後に、加賀前田家が築き直したもので、高さは 6 間（約 11・8m）、ただし下部 1m ほどは埋没している。なお、現天守台の東南隅部は、幕末の本丸御殿の火災で少し焼損している。

寛永度の天守台は高さ 7 間（約 13・8m）で、明暦の大火後は 1 間低く再築された。それは、寛永度天守が完成した時に、天守台石垣が高すぎて、本丸周囲の多門櫓の屋根越しに石垣が少し顔を出して無粋だったからだ。家光が天守台を低くしておけばよかったと悔いたと伝えられ、寛永度の設計ミスを修正して、天守台の高さを低くしたものである。天守本体の再建は、家光の弟だった保科正之の建言によって中止されてしまった。しかし、天守台の高さの逸話からしても、当初は再築天守台の上に寛永度天守を再現する計画だったことが分かる。（次ページへ）



江戸城寛永度天守復元側面図
(経年変化後)

寛永度天守は、外観は五重、内部は地上五階で、天守台の内部（穴蔵^{あなぐら}）に地階があった。1階は南北18間、東西16間あり、天守史上最大だった。しかも、この1間は通常の天守に使われた6尺5寸間^ま（約1.97m、京間^{きやうま}）ではなく、7尺間^{おおきやうま}（約2.12m、大京間^{てんしゆ}）だった。7尺間の天守には、織田信長の安土城の天主（天守の古称）、家康の名古屋城天守、徳川再築大坂城天守が知られ、天下人の天守だけの特別仕様だった。

寛永度天守の1階は、「江府御天守図」（都立中央図書館蔵）によると、南北・東西ともにさらに4寸（12cm）ずつ大きかったことが分かる。したがって正しくは、南北39.30m、東西34.06m（いずれも四隅の柱の真々間隔）で、床面積は1338.56㎡（394.65坪）もあって、隔絶して史上最大だった。現存最大の姫路城大天守は約160坪なので、その2.5倍近くもあった。

寛永度天守の高さについては、天守台を含めた総高が193.5尺（約58.63m）と算定され、現代の19階建てマンションの高さに匹敵する。天守台石垣の天端から棟木^{むなぎ}（最上重屋根内の頂部の水平材）までの天守本体の高さは144尺（43.63m）だった。

寛永度天守の外観は、一重目から五重目までが整然と遞減して富士山のように美しかった。南正面と北背面には一重目に大きな千鳥破風^{ちどりばふ}、二重目に小振りの二つの千鳥破風、東西両側面では逆に一重目に二つ、二重目に一つの千鳥破風を飾る。4階の四方には出窓を設け、四重目屋根にからめて唐破風^{からばふ}屋根を設けていた。五重天守の破風の配置として、究極的な美の構成である。

各重の屋根は、すべて高級で耐久性に優れた銅瓦葺きだった。各階の外壁は、雨がかからない上部を白漆喰^{わりご}の塗籠とし、下部を銅板張りとして錆び止めに黒チャン（煤と松脂^{まつやに}や荏胡麻油^{えごまあぶら}などの混合物）が塗られており、銅ずくめで格調高い黒い外観であった。そして最上重の屋根には、名古屋城天守と同様の金鯱^{きんしゃち}（木芯を黄金の板で包んだ鯱）が上げられた。（次号へつづく）

松平特別顧問を囲む会、45名の会員で賑やかに開催



8月23日東京神田の学士会館で、会員の中から是非講演を聞きたいという要望が強かった「松平定知特別顧問を囲む会」が開催され、参加者45名の会員・一般のみなさまが、楽しく和やかなひと時を過ごされました。今回は新体制島田理事長の下、もう一度NP0の原点に戻り、市民活動を通じ100万人の賛同署名、会員増強を通じ世論喚起を目指す中で、まずは会員のみなさまの交流・懇親を目的とする場として、初めて行うイベントでした。

松平特別顧問には「江戸時代の功績」をテーマに、松平流歴史の見方の3つのコンセプト（①資料至上主義にならない、②歴史を結果から見ない、③勝者の側に立って歴史を語らない）のうちの3番目の視点から、日本の今日の基盤づくりになった江戸時代の足跡を講演されました。特に最後のところの人材づくりの話で、日米通商条約に貢献した小栗忠順、“今はその時にあらず”の言葉を残した保科正之（徳川家光の異母弟で、家光と家綱を補佐した）のような決断のできる政治家が今、必要ではないのかと結ばれたのが印象的でした。

会員のみなさまは5つのテーブル毎で名刺交換や交流が活発に行なわれ、最後に会員の一人としてご参加いただいた松沢成文参議院議員が、爽やかな語り口で、当会の目指す環境が世の中に浸透し始めている事等を話され、会場は更に盛り上がり、会員のみなさまの心と心をつなぐ会となりました。

会員の懇親と現状の問題課題を意見交換する場は、別途設定する必要があると感じたイベントでした。



③ これまで2回寄稿していただいている、福田啓氏による最新のドイツ・ベルリン王宮再建レポートです。

NPO が
火を点けた

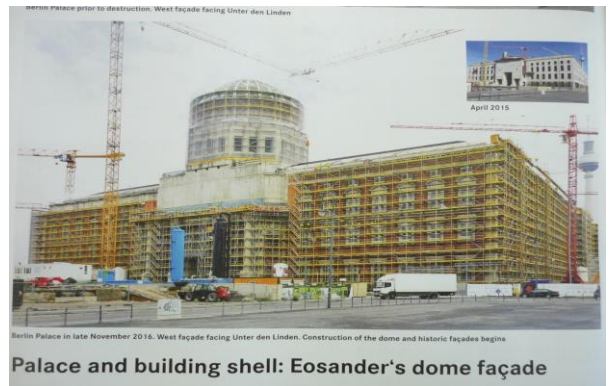
佳境を迎えるベルリン王宮再建

福田 啓

2015年6月の上棟式から2年が過ぎ、ベルリン王宮の再建事業は今まさに佳境を迎えている。上棟式の時点では旧王宮の輪郭はほぼ整っていたとはいえ、外壁は灰白色のコンクリートが剥き出しの状態で、窓穴の空洞ばかりが目立っていた。今では、伝統的工法により煉瓦壁を1メートル近い厚みで壁面に積み上げていく作業が完了し、高さ35メートルの外壁面は煉瓦壁で覆われている。北側ファサードの一部では、煉瓦壁の上の漆喰仕上げが行われ旧王宮の歴史的 외観が甦っている箇所もある。旧王宮の破壊前の測量写真などの資料に基づいて手作業で砂岩に復元彫刻され、美術史学者による厳格な考証を経た彫像、装飾部品、窓枠などの外壁への取り付けも相当進んでおり、バロック建築としての威容を感じさせる。あとは西側ファサードの上に聳える高さ60メートルのドームの外壁装飾が完了すれば、ベルリン都心部の歴史的景観が約70年ぶりに再び完全な姿を現すだろう。

目下、再建作業は予算面・スケジュール面共に予定通りに進捗している、とのプレスリリースが8月18日付けで行われた。2018年中には建築作業は外装、内装ともに完成し、博物館「フンボルト・フォーラム」としての開館に向けた移転・設営の段階に入る。博物館としての開館は2019年中とされている。

歴史的 외観の復元に要する総費用約1億ユーロのうち、既に7千万ユーロの民間寄付金が集まっているが、当初から一貫して再建事業を推進してきたNPO法人「ベルリン王宮振興協会」は、残る所要額を2019年までに寄付金で充足すべく、一層の協力を呼び掛けている。

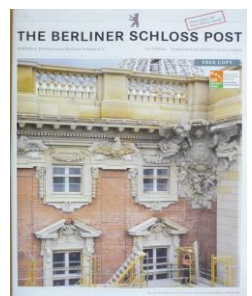


第二次世界大戦末期の戦災を経て1950年に旧東ドイツ政府によって爆破されてしまった旧王宮は、東西冷戦の時代を通じ忘却の彼方にあった。しかし1990年のドイツ統一の後ベルリンが新首都に定まると、ベルリン都心部をどのように再開発していくか議論が提起された。旧王宮は歴史的にベルリンの都市構造と景観の結節点であったことから、この議論は必然的にその再建の是非をめぐる議論へ発展していった。この情勢の中で「ベルリン王宮振興協会」は1993年夏に、原寸大で描画されたバロック様式のファサードの書割により王宮を再現するイベント「王宮シミュレーション」を実現し、再建に向けた世論喚起活動の口火を切ったのである。以来、各種の言論活動、募金活動、政治への働きかけを粘り強く続けた結果、2002年の連邦議会決議でベルリン王宮の再建が決定された。博物館としての建築費用は政府が担い、歴史的 외観の復元は全て民間寄付金で賄うという官民共同の枠組みが定まり、2007-8年の再建案コンペ実施、2013年定礎式、2015年上棟式、と進められてきたベルリン王宮再建の歴史は四半世紀に及ぶが、それはそのまま「ベルリン王宮振興協会」の歴史に他ならない。

二度の世界大戦を引き起こしたという歴史的経緯から、ドイツにおいては戦災で破壊された数々の文化財について復元や再建の問題が提起される都度、その是非や形態を巡り激しい論争が重ねられてきた。ベルリン王宮もその例外ではなく、美術史・建築史・都市計画史という観点での旧王宮の復元をもって議論を完結させることなく、再建王宮を博物館・図書館・教育機関を融合させた「過去と未来の対話の場」、ルーブル美術館や大英博物館と比肩する「文化の燈台」として位置付け、「21世紀初頭におけるドイツ最大の文化的プロジェクト」として官民共同事業の形で推進している点に特色がある。このため歴史的 외観の復元にあたり資料考証、歴史的工法の適用、復元彫像・装飾部品等の審査は厳格を極め、ドイツやポーランドのICOMOS国内委員会とも連携しながら世界文化遺産となりうる高水準の復元を志向しているのである。

江戸城の再建を考える際にも、単なる観光振興、経済効果、都市景観という次元を超え、我が国を代表する文化的プロジェクトとして再建江戸城にどのような使命と役割を与えるのか、海外特に欧州諸国の先行事例に目配りしながら、議論の拡大と深化が求められよう。（写真はTHE BERLINER SCHLOSS POSTより複写）

完成予想図（2019）



100万人賛同署名獲得運動&「支部」活動スタート！

各地に誕生

静岡沼津支部長：水口 淳、 千葉第一支部長：江澤 廣
神奈川支部長：望月重公、 千代田支部長：検討中
目黒支部長：鈴木啓子、 名古屋支部長：成瀬 京司
荒川支部長：清水英男、 {敬称略、平成29年9月1日現在}

◆上記の方々に支部長を引き受けて戴きました。皆様の支部長引き受けをお待ちしております。

{事務局まで、ご連絡ください。}

◆新規会員紹介キャンペーン開催中です。特に、賛助会員 {年会費3000円} の紹介をお願いします。

{同封しました入会申込用紙をご利用ください。}

◆賛同署名累計実績 35,089 名： 今年の実績 6,541 名 (平成29年9月4日現在)

千葉第1支部だより

まず署名活動から実践中！

千葉第1支部
支部長 江澤 廣
(特別委員)

◆江戸城天守再建の実現のためには、まず国民皆様の盛り上がりが重要。そのためにはまず署名の数を増やしていくことが必要と考え、「皆さんで実現させよう江戸城天守再建！」を合言葉に、活動をより実践的に行っています。現在、私たちの署名活動の主な場所は協力をいただいている九十九里スパ「太陽の里」です。日頃ボランティア活動している「氣天流獅子・ひよっとこ会」・「桜川流江戸芸かつぼれ」のメンバーが署名活動をしています。来場者にオス・メス獅子との記念撮影等楽しんで頂きながら署名をお願いしております。特にお子様連れのお客様には獅子・ひよっとこが大人気で、時にはひよっとこが皆様の手拍子に乗せられ演芸や踊りを披露すること度々で、署名活動にも大いに効果があるようです。



◆更に多くの皆様に江戸城天守再建活動を認知して頂くため、いすみ市大原の「港の朝市」での署名活動を行うことが決定しました。朝市は毎週日曜日開催で、人気のある「港の朝市」で、海の景色を楽しみながら潮風の香りを感じ、ご自分で料理の伊勢海老・サザエ・魚等の海鮮バーベキューが楽しめます。そして舌鼓を打った後に、署名のご協力をいただけたらと考えています。

◆皆様に仮称「江戸城ガールズ」を呼びかけて、歴女、お城好きの皆さんと本部公式ホームページを核としSNS(ブログ・FB・ライン)等で横繋ぎりの情報を共有したり情報交換の場を作るなどのシステムの構築を研究中です。



神奈川支部だより

横浜開催「お城 EXPO2017」に向けて

神奈川支部長
望月重公
(特別委員)

◆この度、神奈川支部長として地域を中心に活動することになりました。どうぞ宜しくお願い致します。◆当面の目標としましては、年末12月22日(金)から3日間パシフィコ横浜で開催される「お城EXPO2017」での出展を成功させることです。このイベントは日本城郭協会が主催し、今回のテーマは「日本100名城」に加え「続日本100名城」の写真展です。最近の城ブームにより、昨年の19,000人を上回る来場者が見込まれております。去年は、来場された多くの方々に江戸城再建の賛同署名を頂きました。◆今年の出展は本格的にブースを設け、CG作家成瀬京司さんの協力をえてQRコードを利用した江戸城のCG画像の展示を予定しています。一人でも多くの人々が楽しみながら、我々の活動を理解してもらえればと思い、EXPOチームを編成し知恵を絞って準備を進めております。おりしも今年の2月に、松江歴史館で「家康の築いた江戸城」を描いた「江戸始図」が発見され、大きな反響を呼んでいます。寛永度天守の再建を目指す私達にとっても、この歴史的発見が活動の追い風になるものと大きな期待をしながら、これからも地道な活動をして参ります。



当会が文化イベント「東京江戸ウィーク 2017」を後援します！

「東京江戸ウィーク 2017」は今年10月5日(木)～9日(月・祝)、上野公園で開催され、約10万人の来場者が見込まれています。

このイベントは、2020年の東京オリンピックに向け、日本の人々や文化に触れることで世界の人々を魅了し、日本の誇る伝統文化、技術を価値ある財産として次世代へつなげたいとの思いで生まれました。世界有数の「文化の杜」上野恩賜公園で、伝統的な和装、日本文化、日本食の魅力を様々なスタイルで身近に楽しめる華やかな祭典です。

今回は「NPO 法人江戸城天守を再建する会」のコンセプトや活動姿勢が「モノ」や「食」を楽しむ場だけではなく、さらに一味違った魅力を加えることを期待されています。当会の掲げる「東京再生」、「地方創生」そして「日本の歴史・伝統・文化」を共通軸に、東京オリンピックを照準としたコラボレーション・イベントを、

文化・芸術の秋にふさわしい東京・上野の杜で大々的に開催することになりました。

当会が提供するアトラクションは「氣天流獅子舞と桜川流江戸芸かっぽれ」(写真右上)、黒田涼氏の「寛永寺と江戸の足跡めぐり」、展示はお城作家長谷川進氏創作のお城の模型3～5城を展示予定です。どうぞご期待ください。



当会のブースでは、江戸の歴史変遷パネル展示と江戸城の映像をモニターで流します。賛同署名や会員募集のコーナーもいつものように設置し、江戸城再建の世論喚起のために大いにアピールをします。

会員のみなさまも是非ご家族・ご友人をお誘いの上ご参加いただき、上野の杜で江戸の文化を楽しんでいただきたいと思います。別添のチラシなどご覧ください。

当会ブースでの活動に、ボランティア募集中。奮ってご参加ください。



上野恩賜公園・噴水広場(ゲーブル地図より)

東京江戸ウィーク 2017 概要

- 名称：東京江戸ウィーク 2017
- 日時：2017年10月5日(木)～9日(月・祝) 11:00～21:00 (最終日は19:00閉場)
- 会場：上野恩賜公園(メイン会場：噴水前広場)
- 来場人数(見込)：10万人/5日間計 ※天候により変動する可能性あり
- 主催：東京江戸ウィーク 2017 実行委員会
- 後援：経済産業省 / 外務省 / 東京都 / 観光庁 / 台東区 / 上野観光連盟 /
NPO法人 江戸・商店観光振興会 / 一般社団法人ジャパンショッピングツーリズム /
NPO法人 江戸城天守を再建する会





黒田涼の「江戸城散策ガイド」シリーズ

第2回

＜飯田橋から本丸まで＞

江戸城散策コースをご紹介します。広大な江戸城全域はとてとても1日では回りきれません。半日コースを基本にどなたでも歩けるコースにしますので、ぜひみなさん、これを参考にお出かけください。江戸城散策コース第2回は、「飯田橋から本丸まで」です。

◆江戸城散策の第2回は江戸城外堀の北側から本丸までを歩き、その広大さを体感していただきます。スタートは飯田橋駅です。J R・メトロたくさんの出入り口がありますが、メトロであればB2a出口、J Rであれば西口を出て下さい（J Rは現在工事中で仮設出口）。早稲田通りぞいにある交番からスタートです。

◆江戸時代にはここに、江戸城内への出入り口、牛込門がありました。目の前の大きな水面はかつての江戸城外堀で、脇を走る総武線・中央線は外堀を埋め立てて通されました。その巨大さに驚きます。交番横には大きな石が置いてあり、かつてこの門を造った蜂須賀家の証し「阿波守」の文字が見えます。反対側に渡ると巨大な石垣が残ります。橋の中程まで戻って振り返ると、J R線の脇から高々と石垣が組まれているのがわかります。この石垣は明治初期に牛込門が破壊された際に残された部分です。交差点周辺には、かつての門の石垣の跡が、舗装の違いで表現されています。

◆早稲田通りを北の丸方面に進みます。突き当たりが田安門です。江戸城現存最古の門で、1636年（寛永13年）の建築で国の重要文化財です。この中が北の丸。江戸時代後期は御三卿のうち、田安家と清水家の屋敷があり、明治以降は近衛連隊の駐屯地となります。今は公園となり、美しい森の中に近衛連隊の記念碑などが残ります。

◆少し先で左に曲がると、やはり重要文化財の清水門。こちらは1658年（万治元年）建設です。門外に出てお堀沿いに高石垣を見ながら右に進むと、竹橋です。ここにも城門がありました。皇居側に解説があります。ここまで来ると本丸はもう間近、左手にその高石垣が見えます。坂を登り切ると皇居東御苑出入り口の一つ、北桔橋門に出ます。月・金はお休みですのでご注意ください。

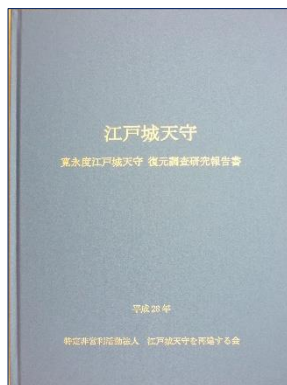
◆【ご案内】座学・散策とも11月11日(土)を予定しています。

→詳しくは別添のチラシをご覧ください。



「寛永度江戸城天守 復元調査研究報告書」を読む＜1＞

理事 土屋 繁



明暦の大火（1657年）で焼け落ちて以来、今日まで再建されなかった「江戸城寛永度天守」は壮大で美しい姿だった。三浦正幸・広島大学大学院教授は「日本城郭文化の最高傑作」だったという。

三浦教授は「江戸城天守 寛永度江戸城天守復元調査研究報告書」を平成26年に出版され、無償で当NPO法人「江戸城天守を再建する会」に提供された。私たちは、三浦教授に指導を仰ぎ、この報告書を根拠に天守再建運動を展開している。

寛永度江戸城天守は隔絶した規模の壮大さ、各重の平面と階高の綿密な遞減が生み出す、富士山を思わせる外形の秀麗さ、均整の取れた破風配置の華麗さ、銅瓦葺の屋根や銅板張の外壁の高貴さ、屋根上に輝く金鯱の豪華さ、いずれにしても天守史上で最も優れた天守であったという。

寛永度江戸城天守の特質の一つとして、規模の壮大さが挙げられている。柱間寸法を天守に一般的な6.5尺（約1.97m）ではなく、7尺（約2.12m）としていた。7尺間は織田信長の安土城天主、徳川家康の名古屋城天守など、天下人の天守に用いられた大京間で、史上最大の天守であった。また一階土台下端から五階棟木上端までの本体木部の高さは、144尺（約43.63m）もあって、史上最高の天守であったという。





会員のひろば

敬称略

素晴らしいコメントが続々と届いております。会員のみなさまの投稿をお待ちしています。

平川 龍 日本の歴史で初めて町人の文化が興り、生活を楽しむ「人生」が根付いた江戸時代。現代の日本人の庶民がその DNA を深く焼き付けている江戸時代。そんな江戸文化の象徴としての江戸城再建に夢を感じます。

江戸/東京も城下町文化、そして「おひざもと」の気概と、粋で洒脱な江戸町民の心が現代に欲しいものです。



田口 武 徳川家康の困難辛苦の総仕上りの江戸城は戦国時代の終止符で有り、江戸地の開発の基と思う。産業、学問、文化の発展につくし、長期の平和を保った。明治の文明開化の後の発展もこの江戸文化の恩恵を受けたと思う。江戸城の天守の再建は、今後の日本国民へのいろいろ多方面のために資することと深く思います。

秋元俊雄 10年以上前、生命保険会社の役員として丸の内二丁目の旧館8階・新館29階事務室から皇居を望み、都心の立派な施設を誇りと思っていました。当時、明治以来140年を超えて皇居として存在した訳ですが、前身江戸城は、江戸時代265年間、徳川幕府所在地の中心として長期にわたり安定政権を支えてきました。このような背景から、江戸城天守再建を目指すNPO法人が存在することは存じておりましたが、昨年7月9日「二の丸庭園見学会」が行われ、太田資暁様のご案内もあり、小生の入会意識が固まりました。「江戸城天守」が再建されることを楽しみに、少しでもお手伝いできれば幸いです。

横田 貴 2020年の東京オリンピックの年に NHK に太田道灌公の収録と放映の署名運動に携わることができました。私はこの運動で、少しだけとはいえ貢献できたことに満足感を得ることができました。淑徳大学池袋校で「江戸の成り立ちと江戸城再建」の公開講座に思い切って受講しました。事例を交えての話は非常に楽しく、理解しやすかったです。私は道灌公についてもっと知りたいと思っていましたので、受講して正解でした。道灌公の偉業についてもっと知りたい、たくさんの人に知ってもらいたい。そんな熱い思いを消すことなく、ボランティアに参加し、自分自身を刺激し、活性化させていきたいと思っています。



長谷川登三男 日本の城に対しての興味は非常にあります。仕事柄、昔より日本を全国的に行きました。その際、城があれば極力足を延ばしてきてみるようにしておりました。特に、熊本城は4～5回は入場しておりましたので、今回の地震被害は残念でなりません。姫路城は勿論ですが、松前、弘前、会津若松、名古屋、彦根、松本、竹田、備中松山、龍野、福山、高松、宇和島、綾城等々も見てきています。私は土木技術者であります、建築物にも興味があり、今回の江戸城再建では、その基礎構造、木造の最大級の建築物（それも宮大工さんが組立てるほどの昔からの技術の継承が必要な）であることなどから、東京いや日本としての最高級な建築物、構造物になること間違いなしです。そんな意味を踏まえて、大きな再建への期待と応援をしております。



K・K インターネットやSNSを通じた広報・宣伝活動、世論形成や資金調達等、まだまだできることはあるのではと思います。事務局の業務を通じてアイディア提案、お手伝いができれば幸いです。出身が川越ということもあり、江戸文化についてもっと知りたいというのがきっかけでしたが、東京を文化の発信地、世界的な観光都市にしたいという会の理念にとても共感しています。大手商社に勤務しており、海外からのお客さんを接待・ご案内することも多いので、東京を、誇れる街にしたロンドンやパリに匹敵するような街にしたいと以前から思っていましたので、御役に立てたら嬉しく思います。

伊藤公一 『江戸城天守を再建する会』その趣旨を知った時、これからの日本に必要な平和のシンボルとして最適と思いました。混沌とした世界・日本にとって天下太平と平和のシンボルとしての江戸城再建は非常に意義あるものと思います。さらに諸外国の日本ブームの動きからして、首都東京に再建される江戸城はさらなる魅力をもって日本の国づくりに役立つものと信じます。ぜひ、この活動を活性化させ、早期の実現に向けたものですね。内覧の日がとても楽しみです。



(予告) ■来春も東京国際フォーラムが、『J-CULTURE FEST』を大々的に開催！

○期間：平成 30 年 1 月 2 日(火)～1 月 15 日(月)まで

○会場：有楽町/東京国際フォーラム

当会は前回同様、協賛の立場で参加。「日本のお城文化展」、講演会、スマホで見る「東御苑の現在と江戸時代」、「チェコのお城と文化」等を検討中。

今年は 1/1～1/5 の 5 日間で 6 万人の来場実績、来春は会期 2 週間で大幅な来場者増が期待できます。乞うご期待！

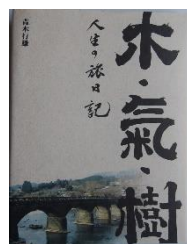


◆太田会長・島田理事長が 経済同友会/産業懇談会にて講演

経済同友会 7 月例会において、太田会長と島田理事長が出席し、講演を行った。そのテーマは「江戸時代初期、江戸城に建っていた史上最大の天守が明暦の大火(1657 年)で焼失し、徳川幕府が何度か再建を試みたが財政難で今日まで果たせずにきた。それを時代が安定した今こそ、東京オリンピック後の国家的プロジェクトとして再建を推進し、国の宝として後世に残そうと運動している」という内容で、列席の同友会会員の方々から多くのご賛同をいただき、再建の意を強くした講演でした。



◆「人生の旅日記」



深川木場の「旦那」が人生の旅日記を著した。当会理事の青木行雄さんで、日記の題字は書家による「木・気・樹」と洒落た創りで、故郷大分の山河を謳っている。日本の城郭は、観光立国日本のシンボルで、天守を保存することは、日本の伝統文化を維持することになると、熱く語る。

◆【江戸城散策ガイド】シリーズお話し会(第1回)

当会会員、作家で江戸歩き案内人の黒田涼氏による江戸城のお話し会<第 1 回皇居東御苑・江戸城本丸コース>座学編が、8 月 26 日(土)九段下の千代田区かがやきプラザ会議室にて開催されました。「江戸城本丸はどのように変わっていったのか？」参加者は、12 世紀の江戸氏の館から、太田道灌の江戸城築城を経て、徳川第 4 代将軍家綱の時代までの変遷につき熱心に聴講されました。次回 9 月 30 日(土)は実際に現場を歩きます。...



◆トピックス【日本橋、首都高地下化へ】

石井啓一国土交通相は、2020 年の東京五輪・パラリンピック後に日本橋の上を走る首都高速道路の地下移設に取組むことを発表した。これは 1964 年開催の東京五輪の時に完成したが、重要文化財である日本橋周辺の景観が問題になり、「日本橋川に空を取り戻す会(日本橋みち会議)」が地下化を提言していた。また国交省の「首都高速の再生に関する有識者会議」が、撤去し地下化などを含めた再生を目指しその具体化に向けた検討を進めるべきと提言をまとめていた。地元住民の強い要望や署名運動などもあり、取組が決定した。費用は 5000 億とも数千億とも言われている。(7/21 朝日新聞より)



■今後の行事予定 (ボランティアのご支援をお願いします)

9/30(土) 黒田涼の「江戸城散策ガイドお散歩」主催

10/3(火) 第 5 回江戸城寄席(内幸町ホール)主催

10/5(木)～9(祝月)東京江戸ウィーク(上野公園)出展

11/4(土)～5(日)第 6 回カレグラランプリ(小川広場)

11/11(土)黒田涼第 2 回「江戸城散策ガイド座学&散歩」

11/24(金)～26(日)、12/1(金)～3(日)

岩本町ファミリーバザールで署名活動

12/22(金)～24(日)第 2 回お城 EXPO(パシフィコ横浜)

1/2(火)～15(月)J-CULTURE FEST2018 協賛開催



集英社版「日本の歴史」より

編集後記

NPO は今、何をしているのか見えないと言われていきます。45 号のかわら版では、当会が「今、どのような活動をしており」、「今後どんな活動していくのか」を中心に編集しました。そして会員の皆さんの「生の声」を、もっとお伝えしたかったのですが、原稿が少なく今後の課題となりました。今後とも会員みなさまのご協力を得て、活きた情報発信を目指しますのでよろしくお願いします。(初鹿)

NPO法人 江戸城天守を再建する会

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-32
前川ビル 3 階

◇電話 03-6423-1882 ◇FAX : 03-6423-1897

◇メール info@npo-edojo.org

◇ホームページ http://npo-edojo.org

◇Facebook http://www.facebook.com/npoedojo



日青木材株式会社
東京大分物産株式会社
油輪当座のニッセイ美術

代表取締役 青木行雄

東京都江東区新木場3丁目9番9号
〒136-0065 電話 03-3522-1181 東京代表
03-3522-1882 東京代表
FAX 03-3522-1184 東京



齋藤史明

